

新年のご挨拶

(令和2年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交換会より)

会長挨拶

一般社団法人 情報サービス産業協会
会長 原 孝

明けましておめでとうございます。これほど多くの方にお越しいただきありがとうございます。また、経済産業省からは牧原副大臣はじめ幹部の方々、また日頃お世話になっている関係諸団体からも幹部の方にご参加をいただきました。ありがとうございます。



今年は令和になって最初のお正月です。そして、干支の最初の子年(ねずみどし)ですが、五国豊穰、商売繁盛の神様の大黒天の使いが「ねずみ」だといわれています。象形文字で、土から新しいものが芽生えるということのようです。新しいことが生まれる年だということで非常に縁起がいい。そして、JISAも昨年で50年。今年、新たな未来志向の51年目のスタートを切ったということで、100年産業に向けて力強く歩む年でもあります。ですから、私も非常に気合が入ります。

ご存じのように、JISAは今年度の事業計画の中で三位一体の革新を謳っています。特に人材については、「人づくり」が「国づくり」ですから、アスリートという言い方をあえてしていますが、現場ファーストということで、実際に頑張っているエンジニアをもっともっと応援したい。そして鍛えていく。世界で戦う、近い将来世界をリードする、そういうITエンジニア、あるいはITクリエイター、ITデザイナー、これらを総称してアスリートと私は勝手に命名しましたが、そういう思いがあります。

スポーツの世界では、若い人たちが世界で活躍しています。この間、バスケットの八村選手の話を知りました。彼は富山の高校出身ですが、バスケット部の顧問の先生が彼にこう言ったそうです。「お前はまだダイヤモンドにはなっていないけれども原石である。ダイヤモンドはダイヤモンドでしか磨けない。だから、多くのダイヤモンドの原石がいるアメリカに行きなさい」。ということで、彼は挑戦した。そしてご存じのとおり、今やダイヤモンドになって、世界のNBAで大活躍しています。

われわれの業界も、JISAは34万人、日本のIT産業は108万人。多くのダイヤモンド

ドの原石がいると思っています。彼らを本当に磨き、鍛え、そしてチャンスを与えて、ぜひ本物のダイヤモンドにして、世界で戦う。そういうエンジニア、アスリートを作りたいという思いを持って JISA の活動を昨年やってきました。今年はさらにそのことを加速していきます。

先ほど理事会で「Society5.0」のお話も伺いました。われわれがまったく経験していない新しい社会を作ろうということで、政府、経済産業省が本当に ONE TEAM(ワンチーム)として世界に挑戦するということです。当然われわれ IT 業界も多くのことを担い、積極的にやっていきたいと思っています。

去年の暮れ、経団連で安倍総理がお話をされましたが、そのときに Society5.0 の一番のキーワードとして人材を挙げていました。そのときに、二つポイントがあるということです。一つは柔軟性。過去に縛られない柔らかさです。そしてもう一つは大胆さだということです。「周りに何と言われようと大胆であれ」と力説されていました。

Society5.0 は、今まで経験したことのない創造社会ですから、当然ミスもロスもあるでしょう。必ずしも効率的でなく無駄もある。そういうものだと思います。今日は経営者が多く集まっていらっしゃいますが、そこは我慢、覚悟を持って、可能性のある若い人たちを押し上げていく。決して甘やかすことはなく、厳しく鍛え上げる。そういうチャンスも多く与えるべきだと思います。経営者の方は自分のことは棚に上げて、部下に 100 点を求めていますか、失敗してもいいじゃないですか。時には 50 点でもいいんです。

昨日テレビを見たら、NHK でカリスマ教師の方が出ていました。今までの教育と違うことにいろいろチャレンジしているのですが、その中で非常に心に響いたのは、子どもたちの脱線を認めるということです。今までの教育だと、脱線しちゃいかん、ちゃんと決めたとおりに行け、ということでしたが、それで本当にクリエイターができるのか？というお話をされていて、まさにそうだなと私も感じました。

今年は ONE TEAM(ワンチーム)で、東京オリンピック、パラリンピックをぜひ成功させましょう。JISA も、今年も元気にわかりやすく、そして大胆にいきますので、皆様のご支援よろしくお願いします。